

指定管理者管理運営評価シート

別紙 2

令和3年度

1 施設の概要

指定管理施設名 (施設所管課)	稲美町立いなみ野水辺の里公園 (教育政策部 生涯学習課)
指定管理者	NPO 法人 環境ユースイングてんま 代表者氏名 小村 徹
指定管理期間	平成31年4月1日 ~令和6年3月31日
指定管理委託料	13,109,000円(令和3年度)

2 指定管理者による自己評価

評価項目	事業計画	実績	自己評価
運営状況	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日数・開館時間等 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町立いなみ野水辺の里公園の管理運営に関する規則第2条第3条を遵守した。 ・開館日数は289日(コロナ対策で通常より-17日) ・閉館日数は76日 公園は通常通り開園(357日) 休園(8日) ・新型コロナウイルス感染症予防のため行政通達に従い令和3年4/25~5/11は休館とした。又、ホタル一般公開のため5/17~6/2の延べ17日間は規則に従い開園を21時まで延長した。 	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常時は、毎月曜日休館で日数・時間とも問題なく適切であった。 ・新型コロナ緊急事態下で緊急的な閉館の処置は適切であった。 ・看板及び掲示により利用者に対し、周知徹底することができた。 ・臨時閉館中も毎日の生き物の世話や事務処理のため、通常勤務は継続した。 ・ホタルの一般公開期間の時間延長は適切であった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業、自主事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町立いなみ野水辺の里公園指定管理者協定書並びに仕様書に従い本業務を実施した。具体的には下記事業を実施、参加者への支援指導を行った。 ・自然体験イベント・セミナーの実施 「秋の木の実で染めよう」「それいけバツタ取り大会」 ・特別企画として「夏休みお助け工作教室」「セミ羽化観察会」「綿から糸を紡ごう」「冬の虫って何してる」「その他」を実施。 ・環境学習の受け入れ(3回) 延べ80名 ・諸団体他NPO法人等との連携協力事業を実施。 【学習棟内の展示】 ①常設展示は、観察コーナー調べるコーナー・遊ぶコーナー生きもの展示があり、常に良好な状態を維持した。 ②季節展示は、6回の展示替えを行った。又、「切り絵」「羊毛フェルト作品」等協力者による展示も行った。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東播磨管内の行政、他NPO団体と日常的に連携し協力体制を維持、強化することで事業運営の向上につながった。 ・従来から蓄積した経験と職員研修や資格取得などで得た幅広い知識で事業を推進することができた。 ・いずれのイベント、セミナーも応募人数を上回る申し込みがある。リピーターも多くアンケート結果の分析により、実績が大いに評価されていると考えている。 ・季節に応じた学習内容を検討、事前準備も怠りなく進め内容の充実した環境学習が実施できた。 ・新規に取り組んだセミナーも好評で次年度へもつながるし。また、さらに新規に提案したいと考えている。 ・他団体の受け入れや出張サービスは、他団体との協力体制を維持するうえでも必要であり継続した。 ・当施設にない文化的なも

		<p>【魚のおうち管理】 水槽清掃、魚のエサやり、水温の管理等日常管理をした。又、休日にはボランティアの協力を得て魚の補充を行う等一定の維持管理を行った。</p> <p>【ちょうのおうち管理】 蝶の専門社員を配置し、育虫舎（蝶のおうち）の整備・食草管理や園内でのちょうの生息調査を開始した。38種を確認 ボランティアの協力を得てギフチョウを羽化させることができた。公園内でみられる蝶も一定量飼育した。又、ちょうのおうちで飼育しているクサガメの自然繁殖も毎年みられた。</p> <p>【ホタル育成事業】 ・昨年度に初めて産卵から育てた幼虫 1,175 匹を放流、R3/5 月には過去最大の 110 匹の出現を確認した。又、初めて自力で産卵、幼虫飼育を行い、一貫したホタル事業を確立した。R3/12 月に地域の子ども達と 750 匹の幼虫を放流した。(R4/5 月に飛ぶ)</p> <p>【アサギマダラプロジェクト(観察継続)】 フジバカマを管理した。飛来は期待外れの 0 匹。「ちょうのおうち」での飼育羽化により一般公開した。</p> <p>【兵庫大学とコラボ 5 年目】 メイン事業の「夏祭り」「お芋畑」がコロナ中止になり、「それいけバッタ取り大会」「蟬の羽化観察」「綿から糸を紡ごう」の 3 事業に参加、コロナ禍で十分な事前準備が困難な中、企画・運営で活躍した。又、コロナ対策にも十分配慮した。</p> <p>【兵庫県青少年本部「ふるさとづくり青年隊」事業】 2 年連続で 2 名の青年を受け入れ、県の要綱に従った事業を行った。 上記の兵庫大学生が参加したことで、コラボ事業と合わせ有意義なものとなった。</p>	<p>のや伝統的な様々なものを展示することで、幅広く人々を呼び込み、多くの異分野の人々とも交流が増した。</p> <p>・展示では、生きもの展示や観察に目を向けるように工夫した。また、たくさんの本があるので子どもたちに興味をもってもらよう昆虫の質問には子どもたちが自分で調べられるよう指導している。</p> <p>・生きもの相手であり、手を抜くと悪化しやすいため、神経を使う管理である。また、同程度施設の見学などまだ、実現できていない。</p> <p>【ちょう】 ・蝶の生育には時季があるため年中の飛蝶は、困難であるがボランティアの協力で、卵から成虫までの観察ができるようになった。 蝶の生態を子どもたちに興味を持ってもらえるような工夫を行い、公園のひとつの目玉にしたい。</p> <p>【ホタル】 ・今年度の成功で毎年安定した出現数を確保する足掛かりとなった。 ・幼虫飼育技術も習得した。</p> <p>【アサギマダラ】 ・アサギマダラのファンも多いので受け入れ態勢を継続した。地球温暖化で困難と思いつつ自然条件が整えば必ず大量飛来するものと期待。</p> <p>・近隣の教育機関とのコラボを継続することができた。イベントは、人材不足となるがマンパワー的にも学生の新しい企画で、楽しさも大いに向上した。 ・地域にとっても当方にとっても有意義な協働である。</p>
<p>・利用者の満足度</p>	<p>・利用者との直接会話やアンケート等から判断して不満は少ない。</p> <p>・すべてのイベント・セミナーで申込者が増加し続けている。(募集後即定員に達するセミナーが</p>	<p>S</p>	<p>・園内でのイベント、セミナーは常に開発し続けてマンネリ化しないように工夫している。公園ならではの活かし、ニーズにあったものに積極的に取り組んでい</p>

		<p>ある)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族による昆虫採集、ザリガニなどの水生生物捕り、どんぐり拾いなどの自然遊びや団らんの場として多くの利用があった。さらにコロナ禍で、外出先が制限される中、家族単位での利用が増えた。 ・コロナ禍での外出の場所として大いに選ばれたと思う。 ・特筆すべきは、当公園を利用するイベント希望者が増えており、可能な限り対応する。 		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の園内利用はほかの利用者の目にも微笑ましく、続けられるよう安全に確保したい。安全の確保については、保護者の意見も聞き対応した。 ・さらに当公園の知名度を高めたり、環境管理の良さ、イベントの楽しさ等あらゆるプラス要素を利用者の満足度に直結させ来園者の増加につなげたい。 ・コロナ対策は、初期より行政の指導のもと最優先で取り組んだ。長期戦に向けwithコロナ、新しい運営方法を取り入れた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・その他（特記事項） 	<ul style="list-style-type: none"> ・トライやるウィーク(2日間)中学生4人を受け入れ生き物の世話、巣箱設置、リース作り、公園管理など自然環境の大切さを指導した。 ・NPO法人ころあい自然楽校との協働 親子12組が参加し、藍染やリース作りを楽しむ。 ・いなみっこ広場との協働 カボチャを育てよう、ホタル放流、公園散策など実施 ・国際交流協会支援 コロナの為に日帰りツアーで留学生7人を受け入れ、焼き芋体験をキッズ10人らと楽しんだ。 ・いなみ野ため池ミュージアム主催ロゲイング中継地点支援 ・外部への出張事業 委託を受けリース作りなど指導。 ・コロナのため、多くの支援事業が中止となった。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の取り組みに於いて、県民局、ため池協ミュージアム、町行政、NPO法人、専門講師等との連携が濃密になり、協働事業としての成果が表面化するに至ったと考える。 ・トライやるに参加した生徒が、事業終了後にもよく訪ねてくれ、交流を重ね、当公園のボランティア要員として地域で活躍してくれることが嬉しい。トライやるの一つの成果があると考えている。 ・これらの実績をベースとして活かしさらなる運営の上積みを図らなければならない。 ・共感できるほかに団体との交流により費用は係るが得られるものも多く、当法人社員のキャリアユースと考えており、再開後は参加し、仲間づくりを進めたい。
施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃 ・植栽等管理 ・警備 ・設備保守 ・修繕 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃及び警備は委託とし、連絡協議により円滑に管理できている。 ・警備会社からの緊急連絡に円滑に対応した。 ・植栽管理は直営式とし、季節に応じた花壇整備を行った。 ・園内の危険枯れ枝、折枝、高木の伐採計画を作成、実施した。 ・園内の不必要な雑草除去は、必要に応じ社員により順次実施した。 ・保守修繕は、日常点検により早めの対応を実施した。 ・公園西側斜面の草刈管理は地元の営農者との共同作業とし、委託事業として実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内整備は、セミナーに対応しながら計画的に、草刈りや枝の剪定を行った。 ・建物、橋、護岸などの構造物は、安全上重要であり、適宜点検を行い、報告を行った、また、小規模修理を社員が実施した。 ・エントランス花壇は、工夫したことで、来園者からも好評であった。 ・草刈などは、生き物の生育に考慮し、時季、範囲を明確にして実施した。

	・その他（特記事項） （施設修繕）	①学習棟非常灯蛍光器具取替 LEDタイプに交換 ②乗用草刈り機の更新(R2年度) ③ホタル幼虫育成水槽設備の更新	S	・老朽化対応等は応急処置により順次修理を実施。 ・大規模又は主たる構造物など修理は協議必要。
利用状況	・利用者数	50,055人/年 （実働306日）	A	昨年比 18%増加 コロナ慣れの影響大
	・施設稼働率	164人/日	A	昨年比26人/日増
収支状況	・収支計画	・指定管理料と各種補助金やイベント・セミナーの参加費などの歳入に合う支出計画を実施した。	A	・租税公課の決算額が予算額を上回った。
	・経費削減の取組み	・社員の特性を活かし、できることは社員で対応した。	A	・地域からの物資協力などもあり、効果的な削減ができた。
運営体制	・人員配置	・全ての運営事業並びに公園の維持管理に支障のないよう適切に人員配置した。 大きなイベント等社員で不足する範囲はボランティアの協力で対応した。	S	・通常は、シフト管理にて複数人出勤し、事務処理や来園者対応の体制をとった。イベントなどは全社員で対応、草刈りなど公園管理作業は2~3日/月、計画的に配置。
	・危機管理体制	・防犯と景観共に留意して樹木の伐採を行った。 ・台風被害の折れ枝等は、速やかに除去し飛ばないように処置した。 ・スズメバチなどは、日常点検及び来園者情報により速やかに処置した。 除虫剤を常備し緊急処置に備えている。 ・新型コロナウイルス感染症については、行政の指導に従い社員及び来園者の安全を最重要視した対策を行った。	A	・危機管理体制の充実。 災害を想定した点検と勤務対応を心がける。 ・来園者の安全を第一に考えた管理を徹底している。 ・当公園の社員、利用者から感染者が出ていないことを踏まえた対応を続けた。
	・苦情要望等への対応	・特になかった。	S	・細やかな要求や質問に対しても丁寧に対応した。
	・個人情報の保護及び情報公開	コンプライアンスの事例による周知。情報公開への確認。	S	公園だよりやブログ、写真掲載などに対し、許諾を必須条件としている。 （全体確認済）
	・その他（特記事項）	・日常から地域と密接な交流を通じ、協働できる体制を維持した。 ・冬季に標本箱の消毒及び腐食した蝶の修復を継続。 ・身近な昆虫の標本を新作した。	S	・サポーターによる標本の整備により貴重な標本が大分よみがえった。今後も冬季に継続する予定。 ・魚飼育の詳しい人を雇用したいと考えている。

総合評価	A	<p>水辺の里公園及び水族園常設展示施設の管理運営に係る協定書に従い、指定管理者としての能力を十分に活用し、地域住民等に対する文化活動及びレクリエーション活動を推進した。兵庫大学生ボランティアなど各種団体、地域住民との協働により事業運営を実施した。</p> <p>一昨年度末からの継続でコロナの影響で、多くのイベント、セミナーが中止になった。基本的には緊急事態宣言以外では、コロナ対策を十分に行い従来にない施策を考え多くのイベント・セミナーをこなすことができた。今後もコロナと共に安心して活動できる場を提供できるように推進する。まだまだ改善すべき点や向上要素があり今回も A 評価としてさらにステップアップを図りたい。</p>
------	---	---

3 施設所管課による一次評価

総合評価	A
------	---

<p>施設の維持管理は、協定書等に基づき適正に行われており、自主事業ではボランティアやサポーターなどの協力を得て準備から行うことにより、経費の削減や地域との協働を図っている。</p> <p>ホタル育成事業では、新型コロナウイルスの影響により学習会は中止となったが、一般公開では、開園時間を延ばして、数多くのホタルの飛翔が見られた。また、一貫したホタル育成を目指して、卵の孵化に成功、1,000匹を超える幼虫を水路に放流し、次年度のホタル飛翔へ繋げた。</p> <p>昆虫や魚などの飼育や管理を適切に行っており、季節に応じて展示を替えるなど創意工夫をしている。</p> <p>令和3年度についても、新型コロナウイルスの影響により屋内施設の閉館など利用制限があり、多くの事業が中止となったが、感染症対策を講じるによりコロナ禍でも出来る限り事業を実施していこうという姿勢は大いに評価できる。</p> <p>今後も「水辺の里公園」の名にふさわしく自然に親しむことのできる公園として、より多くの住民の憩いの場となるよう切に期待する。</p>

4 内部検討委員会による評価

総合評価	A
------	---

管理運営については、協定書通りに行われていて適正である。
ボランティアやサポーター等と連携した様々な事業等に取り組んでおり評価できる。新型コロナウイルス感染症対策の徹底に努め、今後も来園者のニーズに応じた魅力的なイベントの開催により、さらなる利用者の増加に努められたい。

利用者から高い満足度を得ていることが分かるので、今後も後継者を育成するなど引き続き持続可能な運営体制を確保されたい。

5 外部検討委員会による評価

総合評価	A
------	---

【運営状況】

・管理運営については、協定書通りに行われていて適正である。

【施設維持管理】

・日頃から建物、橋、護岸などの点検や、老朽化した箇所の修理を行う等、適切に管理されている。一方で施設の老朽化が見られるので、今後計画的な修繕の検討も必要であると考えます。

【利用状況】

・昨年と比較して利用者は増加しているとともに、高い満足度を得ている。「子どもが昆虫を好きになった。」との意見もあり、教育効果も期待できる。今後、町内の幼小中学校を対象とした事業の実施を期待する。

・兵庫大学、公園ボランティア、NPO 法人等と連携した事業の実施や、トライやる・ウィークで中学生を受け入れ、その後も交流が続いていることは評価できる。

【収支状況】

・収支状況については、概ね適正であると判断する。

【運営体制】

・コロナ禍の影響もあり、アンケート回答者数が減少している。回答依頼や回収方法、またアンケートの内容を工夫するなどして、回答者数の増や施設の長所・短所について分析しやすい内容にする等一層の工夫を求める。また、自主事業の実施や虫、蝶の育成等の経験や技術の継承のため、これまで以上に、新たな人材の育成に期待する。

【総評】

管理運営については、協定書通りに行われており、適正である。

アンケート結果からは、利用者の満足度は高いことが見受けられる。施設の維持管理、修繕等を自ら行うことで、手作り感が出て良い効果を醸し出している。地域の誇りとなる施設を目指すスタッフの方の熱意を感じる。そのような施設となることを期待するとともに、住民に向け積極的な PR をお願いしたい。新規スタッフを獲得する等、後継者の育成に務め、持続可能な体制作りは急務であると考えます。